

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡—太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046
◇
<https://sanken-hiroshima.org/>

一口メモ

▼ホ、ホ、ホテル
今年もホテルが舞つた。昨年は豪雨で大きな被害が出た。過去、幾度となく甚大な被害が発生している。その都度、地元民が家財を投げ打って探勝路の修復に尽力した歴史がある。その熱意を受け継ぎ、今に残された三段峡に思いを寄せたい。ホテルは何事もなかったかのように光る。

山の日イベント 「あおぞら教室」「保護活動」で協賛 深入山の自然・環境保全PR

広島県「山の日」イベントが県内15カ所で開かれた6月2日、安芸太田会場の深入山には約600人が集まった。さんけんは「深入山あおぞら教室」と「ゴマシジミ保護活動」を開いて、深入山の環境保全や生物の保護の重要性を伝えた。



「あおぞら教室」で解説する佐久間智子専門員

グリーンシャワー管理棟脇の芝生にテントを設置して開いた「あおぞら教室」では、さんけん会員でもあるNPO法人・西中国山地自然史研究会の佐久間智子専門員と上手新一さんが、深入山の植物や昆虫の特徴について、午前と午後の二回、解説した。参加者からは「山焼きなど深入山の歴史や価値にたいへん興味をもちたい」との声があがった。大切にしたい」との声が聞かれた。「保護活動」では、ゴマシジミが発生する場所の周囲二百以上に約二十人の参加者が杭を打ってロープを張り、ゴマシジミの産卵場所を守る。親子で参加した小学一年生は「夏休みにチョウを見に来たい」と目を輝かせた。昨年は発生数が少なく、今年の個体数が懸念されている。「ゴマシジミは保全が難しい」と、上手さんは保護活動に期待を寄せている。



滝を登る調査参加者

奥三段峡ツアー調査 滝つぼ泳ぎよじ登る

奥三段峡ツアーの可能性を探る調査を六月二十日、沢登りの経験豊かな、さんけん会員の太田由孝さんと村上友香さんによる指導で実施した。

さんけんからは四人が参加した。冷水対策とヘルメット、ハーネスを装備して田代から入峡した。危険を感じる場所が数か所あったが、安全対策を学びながら、水しぶきを浴びるシャワーで実施された。

安芸太田町のエコツアーリズム素材調査が六月十四日、恐羅漢と天上山であった。植るモクレン科の植物。赤い風鈴のような花をつけるサラサドウダンなども確認した。天上山では希少なランと小さく可憐なイナモリソウに出会えた。

恐羅漢 天上山 エコツアーリズム素材調査

深入山 ゴマシジミの寄主アリの巣 ビスケツト運ばせて特定

さんけんが深入山で保護活動に取り組んでいるゴマシジミの寄主アリの調査が六月十一日、特定非営利活動法人・日本チョウ類保全協会の中村康弘事務局長の指導で実施された。ビスケツトをクシケアリの運ばせる方法で巣の場所を特定した。アリはゴマシジミの幼虫を巣に運び、分泌される甘い液を得る。

南峰と歩く ⑳ 三段滝(さんだんだき)

三段滝は水梨口から一八、八幡川が三段をなして雄壮に流れ落ち、立体的な造形美を見せる景勝である。芸藩通志などに「三段竜頭」「三級竜頭滝」と載る古くからの名勝だが、峻険な地形のため、大正期に道が開かれるまで、実際に見た

人はほとんどいかなかったと思われる。雄ゆえのジレンマ 一九一七年十月八日、熊南峰は下流側の崖をよじ登り、滝全体を見渡せる樽(ケヤキ)のたもとから初の写真撮影に成功した。樽は今も健在である。そこへ展望台が設けられ、同じ構図の写真や絵がパンフレットなどに掲載され、押しも押されぬ三段峡の「顔」になった。

三段峡の中心に構える「顔」

目指して歩くと、三段峡の本当の魅力を見失う。雄である事実がゆえのジレンマだ。真価の継承が宿題 南峰の命名であるのはこれまでにも述べた。集水域全体の山や川を中国の「三峽」と見立て、「三段」と

いうモチーフの遍在が見られるのが命名の由来である。三段滝はその中心に構えているが、三段峡全体の真価が誤解されぬよう、分かりやすく解説し、後世へ継承するのが、南峰が私たちに残した宿題ではないだろうか。(松尾 俊孝)

峡谷の奥深さに感銘

江口 健介さん



地域の環境団体などを支援し、課題解決を目指す一般社団法人・環境パートナーシップ会議の国内事業担当のリーダー。子供達へ今ある環境を手渡したい、と全国を飛び回る。

昨年、SDGs研修で事務局として三段峡を訪れた。水の美しさに圧倒され、自然や歴史文化に峡谷の奥深さを感じたと話す。「三段峡に愛着を抱いて関わっている人も魅力」。その場所のできできない取り組みに誇りを持ち、流域がつながる価値を広く発信してほしいと願い、さんけん賛助会員として支える。(炎)

この人